

# 浄願寺だより

H28夏No.6

遠方にお住まいの門徒さんから定期的に近況を聞かせてほしい、どの要望があり、このたび「浄願寺だより」としてお寺をとりまく身近な出来事を取りまとめてお知らせしようと思います。夏・冬二回の発行を予定しています。

平成二十八年七月二十三日発行

編集責任者

浄願寺住職 関秀法

## 床下の手紙

今年もまた「浄願寺ともし火会」の方々が中心になってお盆前の大掃除をしてくださいました。足場を組んで柱や梁の一本一本、畳の一枚一枚まで、丁寧に雑巾がけをしていたできました。参道の苔も高圧洗浄機できれいにしていただき、真っ白な参道が朝日に照らされてまぶしいほどです。また駐車場は毎月婦人会の方々が掃除をしてくださって、おかげでお参りの皆さんに気持ちよく利用していただけます。

私の父がよく、「寺は村の仏壇やで、いつ誰に見てもらっても恥ずかしくないようにきれいにしておけよ」と言っていました。うちのお寺は住職が至らぬ代わりに、檀家の皆さんが親身になってお世話をしてくださるので、本当に大助かりです。おかげで、お寺の本堂も築八十年を迎えますが、まだまだ美しく、皆さんの手に守られて、とてもしあわせそうです。

そうやって檀家さんとともに八十年を生きてきたお寺の本堂ですが、先日こんな新たな発見がありました。

ある日、私の不注意でお線香を床に落としてしまい、万が一火種が床板の隙間から下に落ちていてはいけないと思い、確認のため床下に入ることにしました。私も本堂の床下に入るのは初めてで、ちょっと怖かったですが行かねばなりません。

床下は土が硬く突き固められており、薄暗く、ひんやりした所でした。懐中電灯で照らしながら、線香を探しましたが、それらしきものは見当たらず、ほっとして、戻ろうとしました。そのとき、奥の方の床板の隙間から光が射しており、そこに何かが落ちていたのが見えました。近づいてみると、それは古びた小さなハガキ大の紙切れで、十枚ほど一カ所にかたまって落ちています。懐中電灯で照らしてみると、何やら書いてあります。表面のホコリを払うと、それは子供が鉛筆

で描いた飛行機や兵隊さんの絵でした。そして裏にはたどたどしい字でこう書いてありました。

「おかあちゃんへ」

このハガキが床下に落ちていた経緯はわかりませんが、おかし、浄願寺にも都会から空襲を逃れて疎開に来ていた子供たちがいたと聞いたことがあります。その子供の誰かが、母恋しさに、床板の隙間を郵便ポストに見立てて、「おかあちゃん」宛の手紙を出していたのでしょうか。その子はその後、どうなったのでしょうか。お母ちゃんはどうなったのでしょうか。お父ちゃんはどうなったのでしょうか。その届けられることなかった絵手紙を見てみると、さまざまなお気持ちがこみ上げて来ます。

築八十年、私たちの言葉にならない悲しみを、よろこびを、さみしさを、辛さを、苦しさを、みんな受け止めて、仏さまは今日もやさしいお顔でここに立っていらっしゃる。

平成二十八年七月 住職

まいつき法座は：  
○ご先祖様の月参りや 命日月のお参りに。  
○毎月のおよき仏縁に。  
○お経（正信偈）の練習に。  
○友との語らいの場に！

毎月第二土曜日  
午後二時から

※八月はお盆のためお休みです。  
今回は九月十日の予定です。

正信偈（二十分）法話（十五分）  
程のお勤めです。後はお茶でもしながらどうぞごゆっくり。  
（茶菓子持ち込み自由）  
どなたでも、  
お気軽にお参りください。

浄願寺だよりはインターネットでもご覧になれます。

浄願寺ホームページ

<http://www.jyouganji.com>

### お寺の掲示板より

自分のことさえ  
 思ひどおりに  
 できぬのに

どうして子と財を  
 思ひどおりに  
 できようか

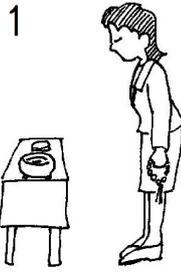
釈尊

字・関秀實

### お焼香の作法

最近では、立ったままお焼香をする事が増えてきました。浄土真宗の立焼香の作法をあらためてご紹介いたします。

浄土真宗の焼香のポイントは、(座つてする場合でも)一回焼香、お香を額にいただかない、ということと  
 ころです。



1 一步手前で  
 仏さまに一礼  
 前にすすむ



4 一步下がって  
 一礼



3 手を合わせて  
 お念仏  
 「なまんだぶつ」



2 一回つまんで、  
 焼香(お香は額  
 にいただきません)  
 焼香は一回

### 門徒の広場

インターネット版では  
 門徒の広場は、ご覧いただけません

### 浄願寺永代供養墓

お墓の管理や、後継者に不安をお持ちの方へ。  
 永代供養墓への埋葬・改葬も選択肢の一つです。

詳しくは住職におたずねください。

### 編集後記

あるお寺の僧侶がお参りに行くとき、お茶の入れ方ひとつにもあれこれ注文をつけるそう。濃さはどうだ、温度はどうだとやかましく言っているうちに、みんな辟易してしまい、それならいっそ、どの家でも同じ味と温度でお茶が出し出来るようにと、その僧侶にはいつもぬるいペットボトルのお茶をお出しする申し合わせができたそうです。私もやかまし坊主にならないよう気をつけます。 住職

浄土真宗本願寺派  
 笹尾山 浄願寺

〒620-0925

福知山市上篠尾725

電話(0773)-22-5280

email [jyouganjiweb@gmail.com](mailto:jyouganjiweb@gmail.com)

<http://www.jyouganji.com>

住職 関 秀法